

ドローン発着の実演も

旧北中などで群大が跡地利活用の説明会

桐生北中学校跡地
(桐生市西久方町一丁目)を拠点に、移動体の遠隔操縦プロジェクト

トや地域資源活用プロジェクトに取り組む群馬大学は19日、同跡地と同大学桐生キャンパス(同市天神町)で2回目の地域住民向け説明見学会を開いた。参加者は跡地に足を運び、活用状況などを確かめた。

同大学では2024年8月から、市所有の跡地を借り受け、地域限定の高速通信規格「ローカル5G」を活用した遠隔運転の研究や、地域の未利用資源を回収・活用などして持続可能な循環型社会のシステム構築を目指す研究に取り組んでい

る。

同大学の6号館(スバル・イノベーションコモンズ)で開かれた説明会には地域住民などが参加した。会では天谷賢児教授らが現在

跡地で行っている研究について説明した後、跡地で研究設備の見学や、ドローン発着用のヘリポートからドローンを飛ばす実演が行われた。同大学理工学部・理工学府長の石間経章教授は「活用状況を少しでもお伝えして、(跡地を)皆でいろいろなものに使っていきけるようにご協力いただければ」と呼び掛けた。



ドローン発着を見学する参加者ら
(旧北中跡地で)